

理研会報

発行部 理研会報部
事務所 成田市幸町48番地
成田小学校

部長 あいさつ

理科研究部長 川勝 九郎 (酒々井小)

毎任、当研究部員が、自ら進んで、実績が各方面にわたる深化拡充を期して、これらも備わった各研究員、位の、この理研会報を通じて、向うの熱意のあらわさを感じます。

本年度も研究部員が増加が見られ、一層重責を感じています。本校のこの本年度の研究部員、項について、展望してみたいと思っております。

◎印研連指定研究学校 向台小 学校が指定を受け、昨年十月九日に公開研究会が開催されました。

印研管内の、千葉、山武、吾妻からも委員の参加がみられ、地域性を生かして、おぼろしい研究発表や、授業が展開されました。

二州小と口具、芝地域の中の向台小口、また、芝地域の、理科研究の進め方、これを期待しております。

◎教育研究集会について 五十九年度の、是非出さして下され。

印研連指定研究学校 成田市立向台小学校

昭和六十年度 六十一年度

一、研究主題 子供一人ひとりが進んで活動する楽しい理科学習の環境づくり。

二、主題について (1)本校での理科指導の反省 本校は、成田ニュータウンの中であり、決して自然にめぐまれていないと言えよう。

観察や実験の喜びを、自然の事物の不思議さから問題を生み出し、進んで解決しようとする意欲に促される。また、自分の考えを話しあひを通じて、高めようとする意欲に促される。観察や実験の方法を工夫するの

が不得手であり、器具の操作に不慣れである。

(2)理科の発展を教師サイドから見る。理解を中心とし、指導意識の強い指導形態をとって、二、三の点について考える。

言いかえれば、児童のわかりやすい相手を、指導、素材、教材の扱い、指導過程の検討が十分な点について、たのめかと思われる。

そこで、児童自身が、自然の事物、現象に自ら向き、自らに直接触れながら、論理を構成し、問題を解決しようとする満足感や、思考の存分さを感じ、充実感のある学習活動のあり方を求めていく必要がある。

(3)理科教育目標から 理科の教育目標は、「観察・実験などを通して自然を調べ、能力や態度を育てる」と共に、自然の自物・現象について理解を深め、自然を愛する豊かな心情を培うことにある。

そのために、直接体験を通して自然の事物・現象の不思議さ、事物の共通性や変化の規則性を見出すことに興味を持って、自分の手で実験し、自分の目で確かめていくことが大切である。

そして、自然を調べる活動をくり返し行うことにより、子供一人ひとりが進んで活動する

姿が見られるようになるものと考えられる。

以上のような考えから、主題を設定した。

三、研究仮説 (1)児童の活動や意識の流転に合った、指導計画の工夫が、進んで活動する楽しい理科学習になるであろう。

(2)児童が活動の中で驚きや予盾を認識し、しやさいよう活動の提案を工夫してやれば、活動の裾野を促し、一人ひとりが進んで活動していくようになる

四、研究の内容と方向性 低・中・高の学年別と研究推進委員会や全体研修修任置づけ、校内組織をつくり、本年度は以下の内容について研究を進めていく。

(1)児童の活動欲求、思考の流転にあつて、授業づくり

(2)児童の提示の工夫、疑問の工夫

(3)理科環境整備

本年度の事業計画

四月十五日 役員会 (成田小)

五月十四日 研究部総会 (橋谷小)

六月二十八日 研究員集会 (酒々井小)

九月十一日 研究員集会 (酒々井小)

十月 四日 部理科作品展 (成田小)

十月 七日 部理科作品展 (成田小)

十月 十六日 研究員集会 (成田小)

十月 十六日 理科器具展示会

※理研会報の発行

※部会理科発表会(員外中)

※研究学校への協力

成田市立向台小学校

61-2-7 中間検討会

